



東京岩高会会報

第59号
平成29年7月22日

栗駒山
(写真: 土井 祐之 S54 年卒)

総会開催案内

年に一度の大結集
上野の丘に岩高家族の
笑顔の花を咲かせよう

第61回 **東京岩高会総会**
平成29年11月25日(土曜日)
午前11時開会(上野公園グリーンパーク)

詳細は2ページに掲載

東京岩高会会報

2017年
第59号

平成二十九年七月二十二日発行

発行人 宮城県岩ヶ崎高等学校同窓会東京支部 東京岩高会 TEL 090-5339-1184
〒192-0023 東京都八王子市久保山町 1-9-99 支部長 長沼和秋
編集人 東京岩高会編集局 編集長 菅原正雄

(有第一コミュニケーション印刷)

東京岩高会の活動



29年新年会



総会受付



菅原由美子副支部長(右)による
地元物産販売



山本信子幹事によるフレーフレー



3.11震災義援金寄贈
宮城県東京事務所にて



平成27年卒歓迎会



東京岩高会 暑氣払い懇親会
平成27年7月11日 上野:グリーンパーク



「ふるさと」斉唱



大抽選大会



還暦の会(49年卒)



第61回 東京岩高会 総会 開催案内

1. 第61回 東京岩高会 総会のご案内

昨年は、東京岩高会が創立され60周年を迎えることができました。これも先輩方・ご関係の皆様方のお支えがあつてのことと存じます。改めて御礼申し上げます。

さて、今年の総会は下記のとおり開催致します。特別プログラムでは、古舘芳子さん（S.51年卒）と津軽三味線の澤田勝仁さんによる民謡三味線を行います。澤田勝仁さんは古舘さんの師匠でもあり、歌手 長山洋子さんの専属伴奏者でもあります。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

- (1) と き：平成29年11月25日(土) 11:00～15:00
- (2) と こ ろ：「グリーンパーク」
東京都台東区上野公園1-59（上野公園西郷銅像横）
Tel 03-3828-5571
- (3) 会 費：男性：7,000円 女性：6,000円
※学生で初めて参加される方はご招待（無料）、
2回目以降は2,000円
- (4) 出欠連絡：9月30日までにご連絡を頂きます様お願い致します。
※出欠の変更はその後も受付けますので、下記または
関係役員までご連絡下さい。
支部長：長沼和秋 090-5339-8141
幹事長：高橋聖 080-5034-0179
- (5) 還暦の会：今年は51年卒が対象であり、当日は当会よりお祝いを進呈致します。
お誘い合わせの上お越し下さいますようご案内申し上げます。



2. 東京岩高会 年会費ご協力のお願い

皆様方から頂いた貴重な年会費が活動の支えになっております。昨年は140名を越えるの皆様方から浄財を賜りまして、真に有難うございます。

本年も引き続き倍旧のご協力の程、宜しくお願い致します。

- (1) 年 会 費：3,000円
- (2) 振込期限：総会開催前の10月31日までに同封の郵便振替用紙により最寄りの郵便局で振込みをお願いします。なお、お振込みにあたっては、ATMをご利用頂くと手数料が軽減されます。

東京岩高会 支部長 長沼和秋
幹事一同



走る東京支部長



長沼 和秋
同窓会
東京支部長
(就任H.28/11～)
S.53年卒
鷺沢出身

会員の皆様におかれては、お変わりなくお過ごしのことと存じます。昨年におきまして、当会は創立60周年を迎えることができました。これも偏に会員の皆様、同窓会本部及び本校の関係方々等のご理解、ご支援の賜物と存じます。改めて、役員一同心より感謝申し上げます。

8年間務めてまいりました佐々木くに子前支部長より、支部長を引き継ぐことになりました。振り返りますと東京岩高会との出会いは昭和53年（1977年）の40年前まで遡ります。上京して間もない18歳のものにとつて、大都会での一人暮らしでの不安の中、先輩方と初めてお会いしたのが千駄ヶ谷の駅前だったと記憶しています。故郷を恋しく感じ始めた頃、上京した同級生や先輩方の顔を見て、ホッ



上京生徒と東京支部長との顔合わせ(平成29年2月28日)

としたものでした。それ以来、同窓会の総会に出席するようになり、26年卒の小野寺喜美夫さん、伊藤七郎さん、栗原孝允さん（ご逝去）、28年卒の伊藤末治郎さん、及川博子さん、35年卒の鎌田正聰さんなどの先輩方と知り合いになりました。鎌田正聰さんとは、大変懇意にさせて頂き、当時学生だった頃、鎌田さんの弁護士事務所によくお邪魔し、それも夕方に、晩御飯をご馳走になりました。また、ご自宅の引越し時には同級生を連れて手伝いにも行き、法律の相談にも何度かのつて頂きました。

大学卒業後は仙台の企業に就職するも、今しかできない海外で何かしてみたいとの気持ちから、青年海外協力隊としてネパールに2年間、そして中近東のヨルダンでの2年間の計4年間、海外生活を送りました。帰国後は再び東京岩高会が待っておりまして。

当時の支部長は菅原一支部長。その後の熊谷英雄支部長から幹事長を務めました。が、名ばかり幹事長で、殆どの担務は熊谷支部長が務めていたような状況でした。平成21年に佐々木くに子支部長が就任、会の運営は熊谷前支部長がサポートして下さることになりました。が、間もなくして急逝され、これまでの担務を新体制で務めなければならなくなりました。特に会報製作の対応をどう進めたらよいか役員会で思い悩んでいたところ、46年卒の菅原正雄さんに支援して頂くことになり、これを機にして「人との繋がりが」がこれまでに以上に浸透してきたように思います。

第19代の東京支部長を仰せつかるにあたり、役員体制についてこれまで務めてきた幹事長のポストや副支部長には女性を起用したいと考えてきました。幹事長には高橋聖先輩（52年卒）が手を挙げて頂き、女性の副支部長には菅原由美子先輩（49年卒）が引き受けて頂きました。会計幹事には、税務署長を務めてこられた浅野和優先輩が新たに役員として参画して頂くことになりました。そして、佐々木くに子前支部長が常任顧問としてサポートして頂くことで役員は固まりました。役員は全て先輩方、私が一番

の年下となりますが、大変協力的でポジティブ思考で対応頂いております。新年度がスタートしこれまで築いてこられた諸先輩方の東京岩高会への篤い想いをしっかりと受けとめ、役員共々手をとり務めてまいります。

こよなくマラソンとネパールを愛する東京支部長として、頑張つてまいりますので、今後もご理解、ご支援のほど、よろしくお願い致します。



同窓会入会式



東京支部の歴史と 会員の絆に感銘



葛岡 重利
岩高同窓会会長
(就任H.25/8～)
S.41年卒
鷺沢出身
旧鷺沢町長

平成28年度の同窓会入会式を2月28日に執り行い、卒業生110名を同窓会員として迎えることができました。今回も東京支部から長沼支部長、前支部長の佐々木くに子常任顧問にはわざわざご出席を頂き、東京岩高会の活動状況を含めご挨拶を頂きました。終了後には、昨年に引き続き東京方面に移られる新卒者との懇談の場を持たれました。同窓会に新しい力が加わり、同窓の輪が広がってほしいと願っております。

昨年は、第60回という大きな節目の総会を開催され、立派な60周年記念会報を発行されました。「目で見える60年の歩み」では、往時の先生や先輩方の写真が掲載され、時間を巻き戻し大変懐かしく拝見することができました。また、これまで先輩方が築いてこられた東京支部の歴史と会員の絆に感銘を受けました。前佐々木支部長を先頭に役員一丸となつての献身的な取り組み

に心から敬意を表します。
母校を取り巻く環境も年々厳しさを増しております。

来年三月には、鷺沢校舎の創造工学科が三年生の卒業をもって閉科となり寂しい限りです。

市内の中学校卒業者数も減少傾向にあり、母校の新入生徒数も年々少なくなっております。

県教委が示す「高校再編基準」を見据え、生徒数の確保に向けた魅力ある学校経営が求められる一方、我々同窓会としても母校の存続のために危機感を持ち、PTAの皆さんや市教委等行政機関とも連携して取り組まなければならないと認識を新たにしております。

このような状況の中、4月の栗原市議会議員選挙では、定数26人の中に我が同窓会会員から7名の議員が誕生しました。大変名誉であり心強く思っております。今後、母校を取りまく行政課題に適切なご指導ご支援を頂けるものと期待しております。

今後とも母校の応援団として同窓会の役割が担えるよう役員一丸となつて頑張つて参る所存であります。

長沼支部長のもと、東京支部の益々のご発展と皆様のご健勝とご活躍をお祈り申し上げご挨拶いたします。

ほかの演奏をいただけることになりました。

伊藤雅楽迪さんは、生田流正派邦楽会大師範であり、国内はもとより海外においても公演されるなど著名な方でございます。

東京岩高会の皆様も仙台市とその近郊の観光などを兼ねながらご出席いただければと思います。

さて、4月4日の朝日新聞に、「日本老年学会と日本老年医学会は医学的な立場から検討し、一般的に65歳以上とされる高齢者の定義を75歳以上に引き上げる提言をまとめた。これに対し、賛否はさまざまだった。」との記事が掲載されておりました。

言うまでもなく、人それぞれ、体力や気力、生活環境が異なりますので、高齢者との言葉を受け止める意識も様々だと思ひます。高齢者の定義云々よりも、自分が置かれている立場を理解した上で、それぞれがそれに見合った範囲で健康で楽しい生活を送ることが有意義なことなのではないでしょうか。その一つが同窓会への出席かも知れません。

終わりに、東京岩高会と岩ヶ崎高校の益々の発展と会員皆様のご健勝とご多幸をご祈念申し上げます。



高橋 清志
同窓会
仙台支部長
(就任H25/04～)
S.44年卒
岩ヶ崎出身

今年の仙台支部総会に むけて

昨年は、東京岩高会創立60周年の節目の年の総会にも関わらず、総会開催日の直前に身内に不幸があり急遽欠席とさせて頂きました。

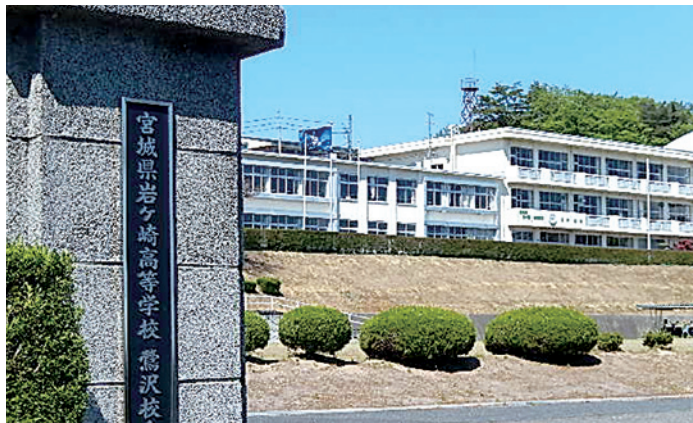
素晴らしい企画の下、多くの皆様が出席され、楽しく活気あふれる、東京岩高会の総会、今年は是非出席させて頂きたいと思っております。

仙台支部でございますが、その活動内容は東京岩高の足元にも及びませんが、試行錯誤を重ねながらその活性化に向けて取り組んでいるところでございます。

昨年度は秋山輝吉さんのリオデジヤネイロオリンピック報告会とあわせて総会を開催いたしました。今年度の総会は10月28日に開催を予定しておりますが、昭和40年卒業の伊藤惣二先輩の奥様で箏・十七絃演奏家の伊藤雅楽迪さん（いとうようたみち）にお願いをし、十七絃の書（作曲 西村朗）、スペイン風即興曲第二章（作曲 吉崎克彦）



館山公園 桜



鷺沢工業高校



同窓会入会式(2月28日)

目次

東京岩高会総会開催案内

〔ご挨拶〕

宮城県岩ヶ崎高等学校同窓会	②
東京支部長	③
同窓会会長	④
仙台支部長	⑤
宮城県岩ヶ崎高等学校	⑥
学校長	⑦
本校近況	⑧
事務局	⑨
生徒	⑩
活動写真	⑪

〔総会報告〕

第60回東京岩高会総会	⑫
開催報告・総括	⑬
表彰者一覧	⑭
年会費・会計報告	⑮

〔会員の窓〕

築館高校同窓会東京支部長	⑯
迫桜高校同窓会東京支部長	⑰
岩高みづな会遠刈田のつどい	⑱
佐々木くに子	⑲

岩高・東京岩高会の今昔と思ひ出

伊藤末治郎	⑳
「なせばなる」を読んで	㉑
追憶	㉒
懐かしさあふれる「くりでんミュージアム」	㉓
細倉の思ひ出と、還暦の同期会	㉔
菅原弘幸	㉕
岩高会二度目の入会	㉖
東京岩高会役員の紹介	㉗
カトマンズマラソン走る	㉘
長沼和秋	㉙
浅野和優	㉚
高橋聖	㉛
菅原弘幸	㉜
岩高会二度目の入会	㉝
東京岩高会役員の紹介	㉞
カトマンズマラソン走る	㉟
長沼和秋	㊱
浅野和優	㊲
高橋聖	㊳
菅原弘幸	㊴
岩高会二度目の入会	㊵
東京岩高会役員の紹介	㊶
カトマンズマラソン走る	㊷
長沼和秋	㊸
浅野和優	㊹
高橋聖	㊺
菅原弘幸	㊻
岩高会二度目の入会	㊼
東京岩高会役員の紹介	㊽
カトマンズマラソン走る	㊾
長沼和秋	㊿

〔東京岩高会の活動〕



館山公園 アジサイ

岩ヶ崎高校に赴任して



吉田 玲子
第25代学校長
(赴任H.28/04～)

同窓生の皆様には、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。また、支部長さんをはじめ、東京岩高会の皆様には、常日頃から本校の教育活動にご理解を賜り、ご支援、ご協力をいただいておりますことに深く感謝申し上げます。

さらに、今年度も昨年同様支部長さんをはじめ役員の皆様のご配慮をいただき、関東方面に進学・就職する卒業生の歓迎会を開催いただきました。卒業生にとって大変心強い応援をいただいたものと思います。

また、二月の同窓会入会に際しまして、東京同窓会伊藤末治郎様から御著書「なせばなる」を卒業生一人ひとりにお贈りいただき、そのうえ伊藤様にも入会式と卒業式にご出席いただきましたこと本当に感謝申し上げます。卒業生もこの本から様々なことを得ることが出来、人生を歩む上で指針になることだと考えております。

このような東京同窓会の活動を知るにつれ、若い卒業生が同窓会に入会するものの交流がなく、役員の皆様が苦慮しているという話を聞きますが、岩ヶ崎高校の同窓会はそのような取り組みとおして、若い同窓生への支援をなさっていることは大変素晴らしいことだと感じております。

本年度は四月七日に入学生八十三名を迎え、教育活動がスタートいたしました。一年生も一ヶ月たち、ようやく岩ヶ崎高校の生活にも慣れてきたように感じます。支部総体も間近に迫り、どの部活も一生懸命に活動し、岩ヶ崎高校の名を高めてくれることと期待しております。

さて、いよいよ本年度体育館の建替工事が、動き出すこととなりました。まず現体育館を、その後、昭和二十九年竣工の旧体育館を取り壊す予定になっております。この旧体育館は、トラスト工法で建築され、その当時の建物が今まで残っていることが珍しく、東北工業大学の先生方を中心にいろいろ調査していただきました。その調査報告会と見学会を六月十一日(日)に実施する予定になっております。建築を学ぶ先生方や生徒達が見学したいという連絡もあり、見学



会を実施することとなりました。本格的な取り壊しは、十月になってからですので、八月の同窓会総会の折りに是非ご覧になっていただければと考えております。体育館工事中の体育の授業は、鶯沢校舎の体育館を使用する予定になっており、借り上げバスで移動いたします。新体育館の完成は、平成三十一年二月です。現二年生の卒業式は新しい体育館で行う予定です。

また、今年度は鶯沢校舎の閉科もあります。最後の卒業生となる創造工学科の二十六名の生徒達は、様々な方面で活躍してくれています。昨年度は県の溶接大会で団体第二位とい

う輝かしい成績を残してくれました。今後も東京同窓会の皆様のご協力とご支援を賜りながら、岩ヶ崎高校をますます発展させていきたいと考えております。

最後になりましたが、同窓会の皆様のご健勝と東京岩高会のご活躍をお祈り申し上げます。

本校近況



佐藤 幸三
同窓会本部
事務局長

東京岩高会の皆様、日ごろより本校の教育活動にご支援をいただき、ありがとうございます。本校の近況についてお知らせします。

3月1日に第69回卒業式が行われ、普通科94名、創造工学科16名の生徒たちが学び舎を巣立って行きました。3年生の担任が全員羽織袴でそろえ、厳粛な中にも卒業生の感謝の思いが伝わってくる素晴らしい式でした。式の途中で担任の先生が涙を流し、生徒の答辞では校長先生が感極まって涙を流すなど、感動、感動の卒業式でした。

3月29日には退任式・離任式が行われ、退職される鶯沢校舎の木村先生やご栄転される齋藤隆教頭先生やOBの秋山賢悦先生など11名の先生方を送り出しました。式には1日に卒業した生徒もたくさん集まり、お世話になった先生方といつまでも別れを惜しんでいました。

4月7日に新任式が行われ、佐々木教頭先生を始めとして本校OBの佐藤和之先生など11名の先生をお迎えしました。また、午後からは入学式が行われ、普通科83名の生徒が校長先生から入学を許可されました。

昨年度始めからの本校における印象的な出来事を振り返ってみますと、まず思い出されるのがリオ・デ・ジャネイロ五輪に射撃男子ラピッドファイアピストルで出場した秋山輝吉選手の壮行会です。壮行会は4月27日に本校体育館で行われ、全校生徒301名と保護者、同窓会の方々も参加して秋山選手を激励しました。

部活動においては、栗原登米支部総体で、女子バレー部と女子剣道部が見事優勝しました。また、秋の栗原登米支部新人大会では、卓球部が男子ダブルス(鶯沢校舎、蜂谷峻康・蜂谷基支)で優勝しました。1月21日に行われた宮城県溶接技術競技大会では本校鶯沢校舎が団体で準優勝、個人でも千葉彩加さんが6位、蘇武末恵さんが7位という好成績をあげました。また、この大会で千葉彩加さんが女子による初めての選手宣誓を行いました。

8月6日に同窓会総会が市内のべ

ルディ栗駒で開催されました。今年度は昭和62年卒業の幹事の皆さんが中心になり、懇親会も含めて盛大に行われました。約80名の同窓生が集まり、恩師も交えて、世代を超えて高校時代を懐かしみました。合唱部のアトラクションでは、鶯沢工業高校の校歌も披露されました。

9月9日、先進的英語教育充実支援事業の公開研究会が本校で開催され、県内小中高の英語教員ら約80名が参加しました。NHK総合テレビなどに出演されている関西大学大学院教授の田尻悟郎先生が講演と模擬授業を行いました。参加した先生方からは、田尻先生の授業のすばらしさだけでなく、生徒の真剣な授業態度に、「この学校で生徒に教えてみたい」という、うれしい感想もいただきました。

取り留めのない内容になりましたが、昨年度から4月上旬までの本校における印象的な出来事をご紹介しました。窓を開けると、白い雪にすっぽりと覆われた栗駒山が見えます。駒姿が現れるのは、まだまだ先のです。今後とも、よろしくお願ひします。



本校近況（生徒代表）



熊谷 匡晃
生徒会副会長

緊張と不安で胸をいっぱいにして臨んだ入学式、あれからもうすぐ2年が経とうとしています。今年もたくさん
の新生が様々な思いを胸にこの岩ヶ
崎高校に入学することでしょう。

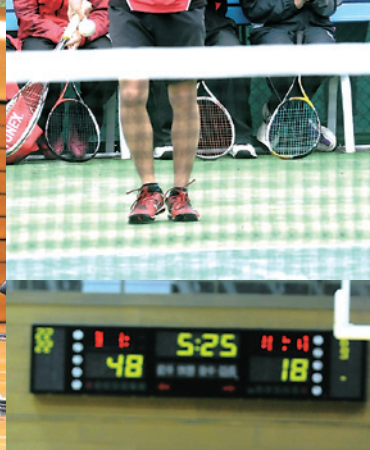
入学式が終わるとすぐに対面式、新
入生オリエンテーションが行われます。
毎年1年生はこの対面式で先輩から
数々の無茶ぶりをされますが、1年生
にとってはこれが何よりも緊張する場
面だと思っています。しかし、この行事は、
先輩と1年生との距離が縮まり、いち
早く岩高の雰囲気慣れしてもらえる
とてもいい行事だと私は思います。4月
には他にも検診や委員会などもあり、
とても忙しい月になると思います。

5月には、生徒総会、支部総体があ
ります。支部総体では、昨年度は数多
くの部活が県総体に出場しました。今
年度県総体に出場するため、または、
さらに上へ勝ち上がっていくため、ど
の部活も日々の練習に励んでいます。
また、文化部の活動にも多大な賞賛の

声を頂いています。

そして、6月には、第1回定期考査が
あります。考査前には職員室前の机は
勉強する生徒でいっぱいになり、また、
考査1週間前からは放課後に15分学習
会が始まり、それが終わってからも学
校に残って勉強したりと、学校全体が
テストモードに切り替わります。この
ように、1つの目標に向かって学校全
体で雰囲気作りをできるところが岩高
の大きな魅力だと私は思っています。

職員室前だけでなく自習室や図書室な
ど集中して勉強に取り組める場所が岩
高にはとても多く、いつも学習意欲を
かき立てられます。岩高は、本当に学習
環境に恵まれていると実感しています。
岩高に入学してから時間が経つのがと
ても早く感じ、気づけばもう3年生に
なりました。受験生としての自覚を持
ち、この恵まれた環境を大いに活用し
て勉強に励むと共に、部活、行事、全
てのことに全力で取り組む1年にした
いと思っています。そして、先輩方か
ら引き継ぎ守ってきた伝統を、今度は
私たちが後輩へと引き継ぐ番です。後
輩が私たちの背中を見てしっかりと伝
統を引き継ぎ、岩高のさらなる発展を
遂げられるよう、これからも1日を大
切にし、日々精進していきたいと思い
ます。



第60回東京岩高会記念総会開催される

創立60周年記念 東京岩高会総会は秋晴れの中、平成28年11月26日（土）午前11時、上野公園グリーンパークにて開催され、同窓生と来賓 総勢100名の出席を頂きました。

創立60周年を迎えるにあたり、皆様方のご理解のもと、「創立60周年記念総会事業基金」を設け、たくさんの方々よりご支援を頂きました。この事業基金で、第58回記念会報、功労者表彰、母校への寄贈そして若手同窓生への総会出席の補助等に充てさせて頂きました。

初めに佐々木支部長から、これまで当会にご尽力等を頂いた方々に対し感謝の意を込め表彰状が贈られました。

続いて、母校へは2年後に完成予定の体育ステージへのどん帳の製作費一部として、佐々木くに子支部長から吉田玲子校長へ10万円をお渡し致しました。

今回は役員の改選期にあたり、支部長は佐々木くに子支部長から、16年間幹事長を務めてきた53年卒の長沼和秋新支部長に引き継がれました。「これまで先輩方が築いてこられ

た東京岩高会、その篤い想いをしっかり受け止め、役員の先輩方と手を取り務めていきます。」との挨拶がありました。

今年の特別プログラムは、平成15年卒の熊田かほりさんによる琵琶演奏、熊田かほりさんは、これまで3回琵琶演奏して頂いております。

今回の演目は「那須与一」「分福茶釜」「川中島」の3曲で、出席された方々は琵琶の素晴らしさに聴き入り、熊田かほりの世界に聴き入っておいりました。

この総会には、匿名の同窓生の方から、母校の校舎が写し出されたラベルが貼られたワインが届きました。そのラベルは旧校舎と現校舎で、そのワインを手にとりて見られた同窓生のお一人は「本当に有難いこと、頭の下がる思いです。」と語っておりました。

また、会からは本校の校章入りの紅白の岩高まんじゅうを出席者の方々にお渡ししました。このまんじゅうは、地元岩ヶ崎の岡本老舗（53年卒 岡本浩一様）製作によるものです。

乾杯は、還暦を迎える同窓生を代表し50年卒 菅原弘幸様からの乾杯で懇談が始まりました。

この総会に、地元より朝4時に出発し神楽を披露するために佐々木勝行さん（38年卒）、後藤家光さん（46年卒）、菅原千暖さん（H22年卒）が駆けつけて頂きました。昨年卒業し上京した小野寺和樹君（H27年卒）は、高校時代に後藤家光さんより神楽の指導を受けたこともあり、一緒に舞ってくれました。

久しぶりに神楽の舞に釘づけとなり、菅原千暖さんの舞では、この総会に対する祝いの語りがあり、感激と感動で拍手・拍手の喝采でした。

そして、本年も復興支援の一環として、菅原由美子副支部長による栗駒の「栗駒漬物」や「まぼろしのまんじゅう」等の販売が行なわれました。

最後は、出席者が腕を組み合い「高校3年生」「ふるさと」を歌い、正に「絆」のラインとなり、応援団を務めた山本信子幹事で「フリーフリー岩高」と校歌斉唱を行い大歓喜の渦が巻き起こった記念総会となりました。

（記・長沼和秋）

表彰者一覧

◆ 栄誉賞

26年卒	小野寺 喜美夫様
26年卒	伊藤 七郎様

◆ 功労賞

28年卒	伊藤 末治郎様
28年卒	吉野 玲子様
31年卒	菅原 一様
35年卒	鎌田 正聰様
35年卒	菅原 幸二様

36年卒	加藤 旭孝様
37年卒	佐々木くに子様
40年卒	桑原 盛一様
45年卒	後藤 仁様
46年卒	菅原 正雄様

46年卒	芳賀 恭様
47年卒	加藤 洋様
53年卒	岡本 浩一様
53年卒	長沼 和秋様
54年卒	土井 祐之様

◆ 感謝状

26年卒	亀井 榮利様
26年卒	佐竹 章様
28年卒	及川 博子様
28年卒	小野寺美代子様
29年卒	藤代 實様
29年卒	水野 満様
30年卒	菅原 正八様
32年卒	鈴木 俊之様
32年卒	高橋 東三様



受賞された皆さん



No	号	年	氏名	No	号	年	氏名	No	号	年	氏名	No	号	年	氏名
1		賛助	齋藤 君代	37	S	35	紺野 準悦	73	S	37	結城 家寿子	109	S	46	我妻 公明
2		本部	高橋 智男	38	S	35	菅原 幸二	74	S	37	吉川 とみ子	110	S	46	和仁 洋子
3			岡崎 宗徳	39	S	35	須田 和恵	75	S	37	吉野 久子	111	S	46	高村 浩子
4		宮城	滝上 島雄	40	S	35	高橋 嘉紀	76	S	38	伊藤 士郎	112	S	47	佐々木 静郎
5		宮城	飯田 伸雄	41	S	35	内藤 利雄	77	S	38	大関 信輔	113	S	47	菅原 喜巳男
6		宮城	渋谷 力	42	S	36	大内 敏彦	78	S	38	佐藤 次雄	114	S	47	関 幸子
7		迫桜	遠藤 幸治	43	S	36	久保田 信子	79	S	38	只野 和夫	115	S	48	浅野 和優
8	S	26	伊藤 七郎	44	S	36	大久保 信子	80	S	38	二川 陽子	116	S	48	岩崎 哲雄
9	S	26	小野寺 喜美夫	45	S	36	小畑 丈夫	81	S	39	吉淵 和夫	117	S	48	梶本 啓
10	S	26	亀井 栄利	46	S	36	加藤 旭孝	82	S	39	佐々木 元子	118	S	48	栗原 武
11	S	26	佐竹 章	47	S	36	佐々木 稔	83	S	40	小山 ハルミ	119	S	48	澤田 由紀子
12	S	28	伊藤 末治郎	48	S	36	菅原 富夫	84	S	40	桑原 盛一	120	S	48	高橋 洋
13	S	28	及川 博子	49	S	36	中村 典子	85	S	40	佐藤 正喜	121	S	48	千葉 正宏
14	S	28	小野寺 美代子	50	S	36	奈須野 栄子	86	S	40	高橋 節郎	122	S	48	千葉 繁典
15	S	28	高橋 昭三	51	S	36	穂積 宏哉	87	S	40	谷川 桂子	123	S	48	本田 みき子
16	S	28	吉野 玲子	52	S	36	渡部 朋子	88	S	41	蘇武 蔵	124	S	48	蜜島 眞夫
17	S	29	鎌田 匡之	53	S	37	阿部 長生	89	S	41	鈴木 仙治郎	125	S	49	熊谷 ふじえ
18	S	29	藤代 實	54	S	37	伊藤 克侑	90	S	42	小川 晶平	126	S	49	佐々木 哲夫
19	S	30	白鳥 吉幸	55	S	37	岩泉 冽	91	S	42	狩野 恒雄	127	S	49	菅原 由美子
20	S	30	菅原 寛	56	S	37	小野 好延	92	S	42	佐藤 寛逸	128	S	49	畠山 純子
21	S	30	菅原 正八	57	S	37	木下 峰子	93	S	42	佐藤 美喜子	129	S	49	濱口 幸江
22	S	31	菅原 一	58	S	37	熊谷 栄子	94	S	42	高橋 秀男	130	S	49	松田 清子
23	S	32	鈴木 俊之	59	S	37	栗原 しげ子	95	S	42	宮本 洋子	131	S	49	真下 由利恵
24	S	32	高橋 東三	60	S	37	佐々木 くに子	96	S	44	伊藤 税	132	S	50	熊谷 純一
25	S	32	西島 栄子	61	S	37	菅原 三千男	97	S	44	飯川 寿行	133	S	50	佐々木 幸男
26	S	33	木名瀬 五百子	62	S	37	菅原 武人	98	S	44	佐々木 敏行	134	S	50	菅原 弘幸
27	S	33	高橋 磨	63	S	37	鈴木 晃	99	S	45	後藤 仁	135	S	51	古舘 芳子
28	S	33	袋 康男	64	S	37	須田 陽子	100	S	45	菅原 保夫	136	S	52	菅原 一郎
29	S	34	清田 泰子	65	S	37	高橋 勝彦	101	S	45	高橋 初美	137	S	52	鈴木 節子
30	S	34	小林 たか子	66	S	37	高橋 道彦	102	S	46	浅野 弘巳	138	S	52	高橋 聖
31	S	34	四ノ宮 信男	67	S	37	高松 武巳	103	S	46	伊藤 光男	139	S	52	星 光男
32	S	34	千葉 辰夫	68	S	37	武田 桂子	104	S	46	岡本 みち子	140	S	53	長沼 和秋
33	S	34	永澤 たつ子	69	S	37	太宰 東臣	105	S	46	佐藤 猛	141	S	53	山口 真貴
34	S	35	岡本 昭雄	70	S	37	千葉 昭一	106	S	46	長沢 斉	142	S	54	佐藤 隆仁
35	S	35	鎌田 正聡	71	S	37	津田 久子	107	S	46	芳賀 進	143	S	56	阿部 豊
36	S	35	小柳 典子	72	S	37	安川 ムチ子	108	S	46	山本 信子	144	S	57	鈴木 正
												145	H	1	武内 里恵

6月30日までにご協力頂きました方につきまして掲載させて頂いております。

会 計 報 告

(H.27/11/01 ～ H.28/10/31)

一般会計				単位：円	
収 入 の 部		支 出 の 部			
項 目	金 額	項 目	金 額		
前期繰越金	178,307	総会費用	803,774		
年会費 (173 名)	562,500	新年会費用	168,050		
総会会費	759,920	慶弔費	21,070		
新年会会費	146,000	事務用品費	56,564		
暑気払会費	76,000	旅費交通費	20,000		
ご祝儀	120,000	会議費	92,775		
助成金	150,000	通信運搬費	41,475		
広告料	85,000	会報費	398,967		
雑収入	65	暑気払会費	101,000		
利子	5	年会費手数料	11,650		
		手数料	5,004		
		本部等総会参加費	146,000		
		次年度繰越金	211,468		
計	2,077,797	計	2,077,797		

60 周年事業会計				単位：円	
収 入 の 部		支 出 の 部			
項 目	金 額	項 目	金 額		
60 周年事業基金 (106 名)	698,000	記念誌費用	227,000		
		母校関連事業費用	100,000		
		功労者費用	50,000		
		新卒者・総会補助費用等	278,188		
		60 年諸費用	33,292		
		事業基金受入手数料	9,520		
計	698,000	計	698,000		

東京岩高会は、皆様方のご理解・ご支援のもとで支えられております。

これからもよろしくお願い申し上げます。

東京岩高会役員 一同



平成 29 年度予算 (H.28/11/01 ～ H.29/10/31) 単位：円

収 入 の 部		支 出 の 部	
項 目	金 額	項 目	金 額
前期繰越金	211,468	総会費用	760,000
助成金 本部	150,000	新年会費用	160,000
年会費	560,000	暑気払会費用	100,000
総会会費	760,000	会報費	400,000
新年会費	140,000	通信運搬費	40,000
暑気払会費	70,000	慶弔費	20,000
広告料	80,000	事務用品費	50,000
		年会費手数料	100,000
		会議費	80,000
		本部等総会参加費	140,000
		予備費	121,468
計	1,971,468	計	1,971,468

年会費協力者・収支





同胞の皆様へ この日の私達の
姿を 笑顔を お届けします。

築高同窓会と 母校のことなど



佐藤 公輝
築館高校同窓会
東京支部長

貴会は、昨年創立六〇周年を迎えられたとのこと、大変おめでとうございます。これからも益々発展され、未永く継続されることを祈念致します。

さて、私は築高同窓会東京支部の支部長の職にある者です。当支部では、支部長はじめ役員は任期2年と定められています。但し実際は2期4年という申し合わせができています。私は現在3年目になりますので、任期の残りあと1年余りということになります。当支部は支部長の候補者は多数おりますが、貴会のように女性の支部長となる

るとなかなか難しそうです。できれば女性にも支部長になってもらい、女性の参加者を増やしたいところです。

ところで、母校築高は昨年度は久方振りに入試の倍率が1倍を超えたということでしたが、今春は又1倍を切っていましたということ。栗原市は人口が減少し、少子高齢化が進んでおり、どこの高校も定員割れというのが実情であり、状況は今後ますます厳しくなりそうです。この状況は栗原のみではなく、日本全体も同じなので、いかんともしがたいことかもしれません。築高は佐々木壽徳校長（築高昭和50年卒・志波姫出身）が今春退職し、後任には、やはり築高卒業生（昭和54年卒・花山出身）の三浦孝洋先生が迫桜高校の校長から転任しました。佐々木校長にはかなり頑張ってもらいました。後任の三浦校長の活躍を大いに期待してるところです。

余談になりますが、先日の市長選で当選し新市長となった千葉健司氏は築高の同窓生です（昭和50年卒・築館出身）。故郷栗原市が発展し、岩高と築高も生徒が増えるよう新市長の手腕に期待したいものです。

貴会の益々のご発展と会員の皆様のご健勝を祈念申し上げます。

若柳高校在京同窓会から 迫桜高校在京同窓会への歩



菅原 久雄
迫桜高校同窓会
東京支部長
(若高31年卒)

初めての在京同窓会が昭和二十八年、小野寺裕一さん（若高4回卒）と先輩たちが中心となり開催されました。初代会長に安達たみ子さん（高女1回・昭和八年卒）を担ぎ出して「若柳高校在京同窓会」が発足しました。昭和28年から33年まで6年間務められました。第二代会長は太田きぬ子さん（高女3回卒）、そして第三代の狩野芳子さん（高女8回卒）には幹事長の渡辺達夫さん（高4回卒）と共に昭和40年から63年までの23年もの間会のために努力して頂きました。

初の男性会長に猪俣誠司さん（若高5回卒）が就任し、母校若高創立60周年記念事業の報告会も兼ねた平成2年12月8日の総会には、恩師、本学校長先生、本部同窓会会長、同副会長の方々をご招待し、総勢86名の出席のもとに盛大に無事終了することが出来ました。平成5年は発明会館、平成8年には機械会館と回を重ね、平成12年の

総会は恩師安斎よね子先生、三浦三吾先生、本校先生、本部会長の他、仙台・大阪在住の同窓生等19名の出席、更には若柳出身のビリーバンバン（菅原兄弟）の特別講演も行われ、総勢200余名の大総会となりました。

時代の流れから栗農と若高が統合し「迫桜高校」となることが決定し、「迫桜高校在京同窓会」設立に向けた活動が始まりました。平成12年11月5日から栗農同窓会東京支部総会にご招待され、そして遂に平成16年12月5日に初の「迫桜高校在京同窓会」が開催されました。会発足に向けて指導頂きました事に栗農同窓会東京支部長遠藤幸治さん、副支部長狩野俊雄さん、菅原文子さん、幹事長に三浦英二さん、事務局長石川嘉治さんにご心より御礼申し上げます。



岩高みづな会

遠刈田のつどい

芳賀 康雄

S.37年卒

栗駒出身

佐々木くに子

S.37年卒

鳥大崎出身

「おっ！来たよっ！」と三年振りに

集まる面々は、同級会という「家族」との再会そのものでした。岩高みづな会（三十七年卒）同級会は六月十九日、二十日遠刈田温泉バーデン家荘に開催されました。新緑の蔵王山はホテルの目前、六月の陽に映えて見事な眺望です。仙台駅からホテルのシャトルバスで22名が到着、自家用車組も出揃い受付開始しロビーは喜びに湧きました。三時過ぎより全員で蔵王チーズ工場パラ園に散策出発。だらだら坂道が二キロ程あり、七十才をとうに越



えた初老たちは再会の喜びに年を忘れ、道々の木苺や桑の実を口に頬張り、良き子供時代を彷彿としてい



受付風景



遠刈田こけしの記念撮影

も多く健康管理の話題は尽きませんでした。大きな声を出すこともなく、静かに語り合う仲間意識の強さはきつと当時の両親や先生たちより育てられた賜物と確認し合いました。

一大ニュースが舞い込みました。写真家の佐藤貢さんがつい先日「栗駒山讃歌」を発刊され、郷土の知られざる魅力写真を写真で発表され、同級生たちは絶賛して買い求め手持ちの30冊は完売いたしました。宴もたけなわ芳賀康雄さんの「さんさしぐれ」に酔いしれ、そして最後に岩ヶ崎高校々歌で母校の存続を願うのみでした。温泉と蔵王のお食事をたつぷりと味わい、三年後の喜寿での元気な再会を約束して翌朝はそれぞれの帰途につきました。



幹事たち



二次会風景



岩高みづな会 遠刈田のつどい 平成29年6月19日



写真家 佐藤貢さん 発刊「栗駒山讃歌」

岩高・東京岩高会の 今昔と思い出



伊藤 末治郎

S.28年卒
第9・13代支部長
尾松出身
東京都在住

私は、昭和28年3月岩高を卒業して64年が過ぎ、弁護士を生業とし85歳になった。昭和26年4月岩高定時制から全日制に転籍し、大学進学希望に燃えた。日々苦闘であったが希望と目的が克服した。一生の基礎を作った2年間で、岩高に対する想いは深く、東京支部に対する想いも格別である。

母校が充実する姿には勇気づけられた。昭和23年に、大関貞一先生の考案による柏の葉を中央に6枚の笹で囲んだデザインの校章が決まり、菊地一郎先生作詞、菅原元次郎先生作曲の第一応援歌もできた。同26年12月には白鳥省吾作詞、信時潔作曲の校歌が制定された。帽章・襟章で岩高生を表象し、校歌・応援歌を歌った。同29年建学の精神である「尚志育英」の石碑が建立された。千葉勇治郎先生が師範の「右尚会」、論語の「尊志」、孟子の「育英」などを念頭に「尚志育

英」に思いを致し、採択された。「志を尊び英才を養う」高校と宣明したのである。「尚志育英」は初代飯田校長の下で始まっていた。校長から抜擢された千葉勇治郎先生が、先頭に立ち学力向上の旗を振った。

先生方の一生懸命の姿は頼もしかった。昭和26年の教育方針として、実力の涵養、公民的社会的資質の向上を掲げた。先生は己を磨いた。同時に生徒を磨いた。3年の時は進学クラスができ、夏休、大晦日前後3日を除き冬休返上で英・数・国・社・理の5教科の授業を行った。飯田校長は県下の優秀な教員を集めるなど成果を上げ、県教育委員会に認められて昭和34・35年の進路指導研究校に指定され、県下の高校の注目を集めた。2代西川十郎校長は県教委行政畑を歴任するエリートで、39歳で岩高校長に就任した。「尚志育英」を高揚し、進学率の飛躍的向上に努め、新人教師は県教委出身の最優秀者を採用し、優秀な生徒の入学を確保した。課外教育も徹底した。中堅教員は早朝7時から、放課後は6時過ぎまで授業し、若手独身の先生は生徒を5、6名ずつ分担して夜7時から個人指導をした。世は、「岩高教育の猛烈教育」といった。飯田校長16年、西川校長5年に

より、岩高は名実共に「尚志育英」の伝統校の地位を確立した。三代佐藤速雄校長は伝統を育んだ。昭和44年には東北大現役合格者7名を輩出し県内外に大きな衝撃を与えた。

東京支部は、昭和32年10月3日、发起人小野寺喜美夫氏、故栗原孝允氏らが23名の同窓生を集めて創立した。東京近郊在住同窓生は約100名であったという。創始のスローガンには「癒し」と「母校の発展」に寄与する希望が書かれている。それが年々充実し、他に類を見ない同窓会に充実した。栗原孝允氏という岩高の長男坊達は、自己犠牲的支部活動を行い、会を発展させ、母校の発展にも寄与した結果である。昨年の総会で昭和53年卒の長沼和秋新支部長が誕生した。大学時代海外支援事業に参加し、東京マラソンに出場するなど広く活動し、佐々木くに子前支部長の許で薫陶された希望の星である。東京支部には名を成し功を遂げた同窓も多い。各界に育った人生豊かな幾多の先達がいる。参加や協力が得られよう。

私は、去る2月28日卒業生の同窓会入会式に出席し、翌3月1日卒業式に出席した。卒業生に「なせばなる」を贈呈し、卒業式では来賓とし

ての待遇を受けた。私は強い感銘を受けた。入場、式場、退場において礼儀正しく整然と行動する生徒を見た。卒業式では校長式辞が生徒の心を揺さぶった。卒業生は涙した。礼節と秩序の美に感動した私は、心の美しさに胸が打たれた。「尚志育英」の下、「社会的公民的資質」を身につけて後輩が発って行く。感動である。

岩高卒は誇らしい。懐かしい郷里と母校に、誇らしい母校が加わった。同窓の皆が集い、語ろう、岩高同窓会の場で。



卒業式にて(3月1日)

「なせばなる」を読んで

中條 咲

栗駒出身

H.29年3月卒業

私はこの本を読んでから、自分は今まで何かを努力してきたのだろうかと思ひ返すようになりました。

しかし、私には自信をもって頑張ってきたと言えるものは特にありませんでした。勉強も部活も中途半端に取り組んできたからだと思います。

その点、筆者は違いました。全日制高校への転入から大学入学、司法試験の突破など学業に目覚めてからの努力の結果を自信をもって語っていました。ここだけ切り取ってみれば、同じような人は現代にもたくさんいると思います。しかし、筆者の学生

時代は戦争という時代の混乱期です。満身に勉強ができない状況下でそれを成し遂げるには、きつと想像を絶する努力をしたはずで、それは病気を患ったことからもうかがえます。それでも病気を乗り越えて目標を達成した筆者を純粋に凄いと思いました。

私は、やる前から諦めず努力し続ける筆者に感銘を受け、その大切さを知りました。私は受験生になってから、「どうして今まで勉強してこなかったのだろう。」と何度も後悔し、

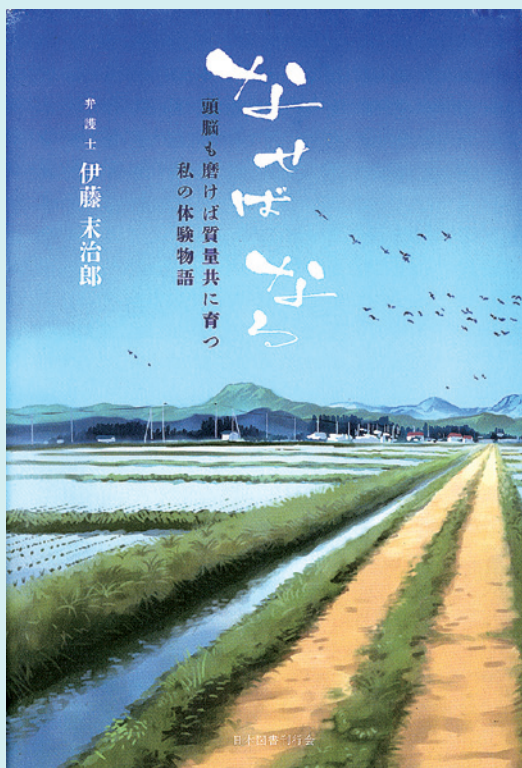
そのうち勉強へのやる気もだんだん薄れていきました。しかし、何事もやってみて続ける。そうしなければ何も達成できません。まさに「なせばなる」だと思います。

私は四月から大学生になります。

きっと沢山の新しい挑戦をする事になると思います。それでも最初から諦めず、まずはやってみようと思います。新しい環境に身を投じる前にこの本を読むことができて良かったです。



「なせばなる」贈呈式(2月28日)



「なせばなる」

子供の頃の郷里の生活、一念発起し「一心は岩をも通す」の諺どおり奮闘した道、老齡顧みれば「なせばなる」の心境に至った体験物語です。



鈴木 俊之
S.32年卒
鷺沢出身

結構厳しく先輩後輩の関係は絶対であった。
時には一年生が建設中の体育館裏側に呼び出され、上級生に「ご指導」をいただくような場面を垣間見ることもあった。

文字街道筋の鷺沢日向から通学する小生は下駄履き（のちは自転車）での小一時間かかる徒歩通学で、電車通学の細倉組は羨ましくもあった。街道の栗鉄尾松駅を過ぎたあたりから近道の山越えをして学校にたどり着く。眺望する栗駒山の景観は雄大で、いまだに小生の故郷はやはりこの山である。

卒業後は地元の栗鉄に職を得て駅勤務となり、朝晩の改札口では岩高や若高に通う女子学生が眩しく、胸をときめかせた事を思い起こす。しかし平坦な日々の中に何か満たされないものがあり栗鉄勤務三年後、退職を決意した。決死の思いで仙台の予備校に入り翌年大学に入学することができた。卒業後は東京に目が向き、生命保険会社に就職して定年まで勤めることとなった。転勤人生で妻や子供達に苦労をかけたが、多くの人々とかかわりが出来、今は地域の住人との交流をしながらキョウイク（今日行く）、キョウウウウ（今日用）に努め日々を送っている。

郷里は人口減少で過疎地も増えてい

懐かしさあふれる 「くりでんミュージアム」



土井 祐之
S.54年卒
栗原市烏矢崎在住

東京岩高会のみなさんお元気ですか。

今年の4月1日、若柳のくりでん旧若柳駅にある「くりはら田園鉄道公園」内に「くりでんミュージアム」がオープンしました。

私が高校生の時は栗原電鉄「くりでん」。第三セクターになって栗原田園鉄道「くりでん」と呼ばれ2007年3月



に廃線になりました。廃線になってもう10年にもなるんですね。

電車通学していた方はもちろん部活の大会で仙台に行くときや、卒業後、家を離れて帰郷する時くりでん（栗鉄）を利用するなど、少なからずどなたにも思い出があると思います。

私もオープン翌日行ってきました。

見どころがたくさんありました。

栗電はもちろん、細倉鉱山の隆盛の歴史の展示。くりでんで使われていた、タブレットや硬券切符のチケットボックスなどの駅でよく見た備品も多数展示。

実際に使われていた車両も2両博物館内に置かれ、中に入ってみるのも自由です。実際に椅子に座ってみると昔の思い出がよみがえって長居してしまう人が多数。

くりでんの沿線風景をジオラマにして展示しているのも沿線各地の特徴を生かして面白いですよ。鷺沢工業高校のジオラマもありましたよ。



と聞く。年に数回ふるさと帰りをし

ながら懐かしい友や親族と飲み語らうことではあるが、首都圏で生涯を終えるであろうことが良かったのか一抹の疑問を覚えることではある。

近年東京岩高会の年次総会はじめ諸行事に多くの同窓生が集うようになりご同慶の至りです。長沼支部長はじめ歴代役員皆様のご労苦に改めて感謝申し上げ、郷里の発展と岩高の隆盛そして同窓生の一層のご繁栄をお祈りします。

各駅ごとの看板（正式名は不明）も懐かしいですね。電車通学ではなかった私でも「くりこま」駅より「たまち」駅の方がなぜか懐かしい。

そして私の一番のお薦めはミニシアターです。栗原の母子がおいちゃんのお墓参りをするという10分ほどのミニドラマを上映しています。

くりでんの思い出はもちろん、ドラマに出てくる沿線の風景が新旧織りまぜて出てきて、懐かしすぎて涙しそうになりました。

思わず東京岩高会の総会で上映したいなとDVDは無いかと事務所に尋ねましたが、DVDは造っていないのでぜひ見に来てほしいとの回答。

ミュージアム内には沿線の市民から提供してもらった写真も随所で見られ、市民の目で見たくりでんもあじわいがありました。

ぜひみなさん帰郷された際には「くりでんミュージアム」に行かれることをお勧めします。
くりはら田園



◎本号内に掲載の地元の写真及び自然の写真は土井祐之さんによるものです。御礼申し上げます。

鉄道公園では以前より、往復1kmの距離ですが、あらかじめ予定された週末に懐かしの車両で試乗会も行われています。同時にお楽しみください。



細倉の思い出と、 還暦の同期会



菅原 弘幸
S.50年卒業
細倉出身

私は細倉出身です。私が幼少の頃の細倉は鉾山一色の町でした。2km四方の所に1万人もの人が住み、9割の方が鉾山関係者でした。町の運営は三菱金属が主体となり住居（住宅）から、病院、銭湯、映画館、電気、水道、電話まで鉾山の管轄下にあったのです。沢山の人がいたのに派出所は一つ、それでは住民の生活相談やめごと対応に限界があり、各地区に詰所という寄合所を設けそこには鉾山の職員が常駐していました。周辺の町は農村地帯なのに、この街だけが都会のような華やかさがありました。100軒近い商店、映画館、パチンコ屋が各々2軒もありました。夜の街も賑やかで、居酒屋、バークラブ等のネオンが輝き、子供ながらに化粧の濃いお姉さんたちを見ては心ときめかせたものです。昭和62年に閉山となりそれからは過疎化の一途。

現在は400人ぐらいの過疎の町です。私の実家はまだ細倉にあります。同級生は全員細倉を離れております。それ故に細倉中学校の同期会を30代から5年に一度のペースで開催しております。昨年は還暦を記念して秋保で盛大に行いました。今はない商店の名前とか、共同風呂の思い出、町を挙げてのお祭りや運動会、小中学校時代の思い出は尽きません。還暦を過ぎると時間に余裕が生まれ最近3年毎に開催してくれ！との要望を頂いております。また関東には細倉出身の同級生が沢山おります。関東地区での同期会の開催も計画中です。その時には岩高、鷲高出身の方々に東京岩高会への活動を是非お伝えしたいと思っています。私は10年前から東京に単身赴任しておりますが、そろそろ引退して細倉でのんびりと畑でも耕しながら暮らしてみたいと思っています。現在の細倉は、昔の賑やかさはなくなりましたが、鉾山の施設は廃品家電品からの金属精錬の事業、観光面では細倉マインパークのリニューアル、鉾山資料館の充実など町おこしに力を注いでいます。最後に細倉の情景が蘇るHPを紹介いたします。昔の様子を写したビデオ

オや写真の数々が皆さんから沢山寄せられて掲載されております。口コミ等もあり昔の友人を見つけれられるかもしれません。細倉フォトギャラリーのHPは、
<http://suganet.jp/hosokura/>です。ぜひご覧になってください。



還暦の同級会



昔の細倉大運動会

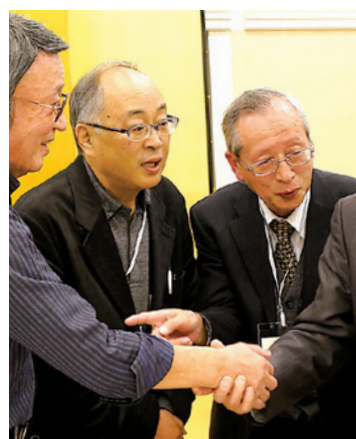
岩高会二度目の入会



浅野 和優
S.48年卒
鳥矢崎出身

昨年の総会で会計幹事に選任されました。それは私が税務署出身であり経理が得意だと思われたのだと思います。このきっかけとなったのは、同級生の千葉副支部長からの電話でした。「今度、岩高会の総会で還暦になる人達のお祝いをしてくれるので、是非参加してほしい」とのことでした。定年退職をまじかに控え一抹の寂しさもあり、同級生に会えるのならと思い参加することになりました。総会当日は20名近い同級生が参加し、高校を卒業してから42年、その間全く会わなかった人もいました。同じテーブルで思い出話をするうちに高校時代の出来事など話が盛り上がり、二次会会場に場所を移して遅くまで酒を酌み交わしました。

思い返せば昭和48年4月に上京したころは東京に馴染めず、春の岩高会新入会員歓迎会、秋の総会に同級生に会うのが楽しみで毎回出席したのですが、その後は忙しさにかまけて足がとうのいてしまいました。同級生のほとんどが私と同様ではなかったかと思えます。還暦を



税理士の先輩方(左からS.40卒業桑原盛一さん、当人、S.44卒伊藤税さん)

当時の私たち



飯村(栗原)郁恵 安住(小畑)美和子 鈴木(高橋)美作子 澤田(小野寺)直子 小甲(矢野沢)定子 岩松(千葉)智恵子 高橋 洋 栗原 武 浅野 和優 窪田(菅原)祥子 鳥澤(佐藤)あや子 横江(菅原)常盤 澤田(渋谷)由紀子 佐藤(佐々木)いつ子 宇佐美(高橋)弘子 渡辺 秀嗣 千葉 繁典 岩崎 哲雄 森尾(近藤)博美 本田(鈴木)みき子 松井(千葉)洋子 菅原(佐藤)典子 佐藤(石野)久恵 笠原(熊谷)すみえ 石井(大場)仁子 千葉 正宏 大久保 広幸 千葉 紀雄先生

「みやぎの環境にやさしい農産物」認証

くりこま高原米

栗駒山の清流で 食味特A

農業生産法人 有限会社くりこま高原ファーム

〒989-5341 宮城県栗原市栗駒稲屋敷大尻6番地

TEL0228-45-2893 FAX0228-45-5425

URL <http://kougenfarm.jp/>

宮城・栗駒産
ひとめぼれ
くりこま高原米

ぼくらが地球を応援。

Contents

Sky Home Town Hosokura Photo Gallery

ようこそ、細倉フォトギャラリーへ

Since 2002/10/27 (新サ) Last Update 2013/01/02
何と6年ぶりの更新です。このHPも、始めてからもう10年！

You Tube

細倉関係の動画をYouTubeで見られるようにしました。
細倉関係の8年1ヵ月ぶりの更新からご覧ください。

0

栗駒山をバックに走る東奥電鉄(昭和40年代)

昭和30年代には隆盛を誇った細倉鉾山。しかし、時代の流れには逆らう事ができず、昭和62年に閉山しました。小・中学校時代を一緒にすごした友人達も、ほとんどがこの町を去ってしまいました。細倉の風景も、年を追うごとに変わってきています...

細倉写真集 ホームページ

東京岩高会役員の紹介



高橋 聖

幹事長
S.52年卒
文字出身

「青春の時期を一緒に過ごした友人、同級生に会いたい。」という思いから多くの「同窓会」が発足しています。そして年を経て、何れの同窓会も会を引き継ぐ若い人の参加が無いという悩みを抱えています。東京岩高会においてもその課題はまだ解決には至っておりません。

「一期だけ」と故熊谷支部長から支部長の役を引き継いだ佐々木くに子前支部長（現常任顧問）は、東京岩高会の柱である総会への参加を本校の先生方の協力も得て、53年卒の幹事長の長沼和秋さんとともに本校在籍の学生、卒業生に呼びかけました。また、本校、同窓会本部、仙台支部だけでなく、築館高校、迫桜高校の近隣高校同窓会にも及び、総会は栗原地域出身者の交流の窓になります。結果、少しずつでは



役員会打ち合わせ

ありますが平成卒の若い方々も出席するようになり、総会にはここ数年約100数名の出席を頂いております。東京岩高会のもう一つの柱である「会報」に関しては、46年卒の菅原正雄さんの尽力によることは誰もが認めるものと思います。

一期リリーのつもりが4期8年もの長い間東京岩高会を幹事長の長沼和秋さんと二人で牽引してきた佐々木さんは「若い会員に引き継いでいくべきだ」とし、昨年総会で支部長を長沼さんにバトンタッチしました。長沼支部長は東京岩高会を次の人に引き継ぐためにも、「執行部には若手も交え、役員が何らかの役割を果たし（あるいは役割を分担し）、みんなで協力しあう会」としたいと考え、副支部長には48年卒の千葉正宏さんと49年卒の菅原由美子さんを選任しました。また、会計

担当には税理士である48年卒の浅野和優さんと52年卒の鈴木節子さん、名簿担当には46年卒の浅野弘巳さん、そして、会報担当には46年卒の菅原正雄さんにそれぞれお願いしました。更に、御意見番とも言える36年卒の加藤旭孝さんと穂積宏哉さん、42年卒の宮本洋子さん、46年卒の後藤直さん、山本信子さん、そして47年卒の和久充さんには幹事を受けて頂いております。

東京岩高会は、まだ全年代の卒業生から「会いたい人がいるから」総会に行きたい」というまでにはなっておりません。全会員の方々の協力がなければ同窓会の課題解決はなされません。「東京岩高会」を全会員で支え、作り上げていき、「郷土を愛する者達の会」となるようご協力をお願いいたします。



台湾旅行にて(昨年)

カトマンズマラソン走る

長沼 和秋

同窓会東京支部長
(就任 H.28/11)
S.53年卒 驚沢出身

ネパールはヒマラヤエベレストのある国として有名。一昨年81年振りの大きな地震が発生し多くの人々が犠牲となり、今でも旧王宮や寺院は修復されておらず、レンガ造りの家は崩れ落ち、家を失った人々はトタン屋根で囲った程度の仮設住まいで、復旧がなかなか進んでいないのが現状です。

私とネパールの関係は33年になり、昨年の9月に首都で開催されたカトマンズマラソンは今回で2回目の出場となりました。

2,000名近いランナーが出場、中



女性ランナーはネパールではウルトラマラソンを走る超有名な



バクタプール旧王宮にて

にはママさんランナーもおり、海外からは中国やポーランドからの参加など、国際色豊かな大会までになっています。私が出場したのはハーフの部、コースには車やバイクが走り、ヒンズー教の国ですから牛が道路を横切り、日本では味わうことが出来ないとてもエキサイティングしながら走ります。

さて、私の記録は1時間45分56秒で50歳台ではトップでしたが、総合では10番目でした。カトマンズ市内を観光しながら走れたことと、知人がバイクで一緒に回って頂き、沢山の写真を撮ってくれたのは、走っている写真はあまりないことから、とても嬉しい限りでした。また、近いうちにネパールで走れるよう、これからも日々のトレーニングを続けていこうと思っています。

【新聞記事】 「カトマンズマラソン 旧日本人コーチ走る」

ネパールで嘗てマラソンを指導した日本人コーチの長沼さんが明日のカトマンズマラソンを走ります。長沼さんは1984年から1986年まで青年海外協力隊隊員としてネパールナショナルチームを指導しました。指導した選手にはネパールのマラソンの神様 バイクンタ・マナングールさん(2時間15分3秒)や多くのオリンピック選手の育成にあたりました。その結果、記録向上に繋がり、今ではその選手たちはネパールスポーツ協会の要職にあたっています。

長沼さんが再びカトマンズマラソン出場されることはネパールスポーツ界にとって光栄なことです。長沼さんは言う「私はネパールをこよなく愛しており、またカトマンズマラソンを走ります。私が教えた選手たち今ではネパールスポーツ界をリードし、そのことを大変嬉しく思っています。ネパールは大変魅力的な国、私はカトマンズマラソンを走ることその魅力を伝えたいと思う。」



<ISO14000:2004 取得>

— 環境に思いやり —

金属スクラップ・リサイクル

株式会社 **ハガ**

栗原市栗駒中野田町西150

TEL0228-45-3421 FAX45-5300



■ 栗原田町にある広大な敷地と工場全景
代表：芳賀 恭 (S.46卒・岩ヶ崎出身)

東京岩高会役員

新役員をご紹介します

支部長	長 沼 和 秋	53年卒
副支部長	千 葉 正 宏	48年卒
副支部長	菅原 由美子	49年卒
幹事長	高 橋 聖	52年卒
会計監査	鎌 田 正 聰	35年卒
会計監査	鈴 木 晃	37年卒
幹事(会計)	浅 野 和 優	48年卒
幹事(会計)	鈴 木 節 子	52年卒

幹事(会報)	菅 原 正 雄	46年卒
幹事(名簿)	浅 野 弘 巳	46年卒
幹事	加 藤 旭 孝	36年卒
幹事	穂 積 宏 哉	36年卒
幹事	宮 本 洋 子	42年卒
幹事	後 藤 直	46年卒
幹事	山 本 信 子	46年卒
幹事	和 久 充	47年卒

顧問(常任)	佐々木 くに子	37年卒
顧問	伊 藤 七 郎	26年卒
顧問	小野寺 喜美夫	26年卒
顧問	佐 竹 章	26年卒
顧問	伊藤 末治郎	28年卒
顧問	及 川 博 子	28年卒
顧問	吉 野 玲 子	28年卒
顧問	菅 原 一	31年卒



**ITで実現できる
創造力を生み出すオフィス**

 理工事務機株式会社

会 長 亀 井 榮 利
(旧姓・門伝 鶯沢町出身)
代表取締役 亀 井 賢太郎

〒101-0064 東京都千代田区猿樂町2-1-14 A&Xビル
TEL. 03-3293-8955 FAX. 03-3292-0140

<http://www.ricohjimuki.co.jp>



菅原勲会長と栗原市マスコットキャラクター
「ねじり ほんにょ君」

東京栗駒会

会長 菅原 勲

鶴ヶ飴 駒ゆべし 季節の和菓子



岡本老舗

宮城県栗原市栗駒岩ヶ崎六日町 38

☎ (FAX) 0228 (45) 1052

代表：岡本 浩一 昭和53年卒 岩ヶ崎出身



グリーンパーク 旦妃楼飯店
住 所：東京都台東区上野公園1-59
電 話：03-3828-5571

創作中国料理

旦妃楼飯店



新しい風、上野へ。

本場上海から、話題の美食先進スタイル上陸！

中国伝統料理に、フレンチ、イタリアン、和食、薬膳などのテイストや
いままでにない発想を取り入れた、新感覚の中国料理 ニューベル・シノワ。